

「見山の郷商品開発プロジェクト」2019年度の活動報告

編集・執筆：矢川 実咲

執筆：仮谷 優花・兵庫沙耶花・朝田 美紅

中谷 直哉・山北 夏実・吉川 佳奈

島田 和平・人見 和希

指導：所員 村上 喜郁（経営学部准教授）

1. 2019年度「見山の郷商品開発プロジェクト」活動概要

北摂総合研究所「食」のプロジェクトの1つである見山の郷提携事業は、2013年に追手門学院大学 地域文化創造機構「見山の郷商品開発プロジェクト」（略称：MSP、以下「MSP」と表記）として開始された。当初からの追手門学院大学側の事業目的は、追手門学院大学生が農事組合法人 見山の郷 交流施設組合（以下、「見山の郷」と表記）と協力し、地域連携活動を行うこと。加えて、参加学生に課題解決型学習（PBL: Project Based Learning）の場を提供することである。

見山の郷の課題は、大きく分けて「従業員と顧客層の高齢化」と「競合直売所の出現」の2つである。そこで、MSPはその2つの課題を大学生が関わることで解決することを目指している。これまで、MSPは大学生の若いアイデアと行動力で新商品を開発している。例えば、第2期（2014年度）に開発した「おうてもん赤しそ塩あんぱん」、第3期（2015年度）に開発した「見山ジュレ」など、どれも見山地域の特産品を使用した商品である。学生が新商品を開発し、高齢化が進んで生産能力が下がった産地の6次産業化を促進するといったように、MSPは見山の郷の商品開発を通じて「従業員と顧客層の高齢化」、「競合直売所の出現」の問題解決にアプローチしている。SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）とは、「誰1人取り残さない」持続可能で多様性包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標である。2019年度のMSPのコンセプトは「見山の郷とSDGs」とし、商品開発、研究発表、イベント参加、「OTMs」として追手門学院中学校での大学生によるSDGs授業を行った。

以下の報告書の構成として、今年度の見山の郷の新商品である「見山をにぎり」の開発については第2章に、「見山の郷に関する研究発表・イベント出展」を第3章に、追手門学院連携SDGsプログラム「OTMs（オーテモンズ）見山チーム活動内容」を第4章としている。（仮谷優花）

2. 「見山をにぎり」商品開発

2-1(1)「見山をにぎり」概要

2019年度のMSPのコンセプトは、「見山の郷とSDGs」とし、今期の商品開発は「見山をにぎり」を開発した。「見山をにぎり」とは、「見山の郷の特産品をたっぷりにぎりしました」という意味で、見山の郷で収穫される安心・安全で新鮮な高原野菜やお米、その他の地場産農林物を使って作られた見山の郷オリジナルおにぎらずである。おにぎらずとは、おにぎりを作る際に、握り固める過程をご飯と具を海苔で包む要領に置き換えた料理で、サンドイッチのように具材を組み合わせることが出来る。

「見山をにぎり」開発によって見山の郷で取り組めるSDGs課題は、②飢餓、⑧経済成長、⑫生産と消費の責任、⑭海の保全の4項目であり、SDGs課題へ着実に貢献することができる。

また、見山の郷の課題の1つである、従業員と顧客双方の高齢化の解決を目指し、ファミリー、お年寄り、若

者まで幅拾い年代に持続的に愛されるおにぎりの要素を持ち合わせ、全世代を繋ぐ商品として開発した。

この「見山をにぎり」は、当学の行事である、2019年8月17日（土）、18（日）のオープンキャンパスと11月2日（土）、3（日）の合同学園祭にて学生と一般消費者に向け販売された。（兵庫沙耶花）

2-（2）「見山をにぎり」企画・作成

今期 MSP 商品開発に先駆け、見山の郷の商品の固定化を問題とし「食」の部分からアプローチを考え、新商品開発によって「従業員と顧客層の高齢化」と「競合直売所の出現」の課題解決に努める方針とした。また、SDGs への貢献を果たすべく、②規格外商品を活用した食品ロス削減、⑧学生連携による6次産業化の促進、⑫地産地消による環境負荷の軽減をもって課題の解決に挑んだ。新商品完成までの段階は大きく商品企画、商品試作、試験販売、商品改良の4段階の工程で進めた。

まず企画段階では、「従業員と顧客層の高齢化」問題の解決に貢献するため、ファミリーや若者層に向けた宣伝を行いたいと考え、商品コンセプトを「あなたの手と de 愛ほっこり見山の郷」とした。商品との出会いをきっかけに見山の郷の認知を図り「お年寄り」と「ファミリー・若者」を繋ぐ商品を作りたいと想いを込めた。その後、何度か見山の郷組合員への調査と学生間で意見交換を重ねた。結果、若者からお年寄りまで全世代に「食」されるおにぎりをベースとした商品、「おにぎらず（おにぎりを作る際に、握り固める過程を、ご飯と具を海苔で包む要領に置き換えた料理）」を新商品として開発することに決定した。

オープンキャンパスでは、商品名を「見山をにぎり」と称して販売を行った。味・見た目・量で満足感を与えると共に、食べ飽きを防ぐため、2種類のおにぎらずを開発した。1種類目は、梅味噌のご飯にピーツ漬けの玉子、大甘ししとうを使ったきんぴらを挟み、甘辛い中にも酸味の効いた味わいに仕上げた。2種類目は、赤紫蘇のご飯にカボチャコロケと青紫蘇を挟みボリュームがある中にもさっぱりとした味わいに仕上げた。【図表1】見山の郷の特産物を使用し、色彩や味に工夫を行ったことで、従来のおにぎらず、また競合直売所との差別化を図ることが出来たと考える。また、バガス（サトウキビの絞り粕）を加工した容器を使用することで、SDGs 項目⑭番への配慮をした。

2019年8月17日（土）、18（日）のオープンキャンパスにて試験販売・アンケート調査・ポスター発表、9月23日（月）の「おうてもんパビリオン」にて試食配布・アンケート調査・ポスター発表、11月2日（土）、3（日）の合同学園祭にて一般販売を行った。【図表2】アンケート調査では、「見山をにぎり」の更なる改良のため、また購入してくれた高校生や保護者の方に、味・見た目についてのアンケート調査・分析を行い更なる改善に務めた。（兵庫沙耶花）



【図表1】オープンキャンパス時の「見山をにぎり」



【図表2】合同学園祭出展ブース

2-（3）「見山をにぎり」広報物作成

オープンキャンパスと合同学園祭での「見山をにぎり」掲示ポスター作成を朝田美紅（3回生）、広報ポスター、のし紙、ポップの作成を仮谷優花（3回生）が行った。

掲示ポスター【図表3】は「見山をにぎり」に興味を持ってもらい、購買意欲を掻き立てるようなポスターにした。コンセプトとして見山の郷の新商品の開発を通じて SDGs の課題解決をすることなので、背景には SDGs

のアイコンをいれた。

(朝田美紅)

広報ポスター【図表4】では「見山をにぎり」はSDGsの課題に対する取り組み内容を表記したポスターにした。「見山をにぎり」の課題解決策をそれぞれ、⑫地産地消、⑭バガス容器、②規格外商品、⑧6次産業化と4つ挙げ、どのように課題解決しているかを説明した。また説明文の横に写真をいれてわかりやすくした。

のし紙【図表5】は、今年のコンセプトに沿ったデザインにして、バガスの容器を巻く帯に使用した。また、QRコードをいれて読み取ると、見山の郷の公式FacebookとInstagramのアカウントにアクセス出来るようにしたことで、見山の郷の広報に繋がった。チラシを配布すると、SDGsの課題解決のコンセプトに反してしまうため、QRコードを表記したポップを作成した。QRコードを読み込んでもらい、アクセスしてもらうことで見山の郷の広報に繋がった。

(仮谷優花)



【図表3】 掲示ポスター



【図表4】 広報ポスター



【図表5】 のし紙

2- (4) 「見山をにぎり」に関するアンケート作成

2019年8月17日(土)・8月18日(日)総持寺キャンパスにて開催された「オープンキャンパス」、9月23日(月・祝)MBS(毎日放送ちゃやまちプラザ)にて開催された「おうてもんパビリオン」で「見山をにぎり」のアンケートを実施した。

実施目的は、「見山をにぎり」の味などの意見を聞くために行い、また「オープンキャンパス」では「追手軽井(おうてがどん:大阪府中央卸市場との連携で開発された商品)」VS「見山をにぎり」をテーマにし、各項目に4点満点、合計20点満点の点数を付けてもらうことで競わせた。工夫した点は、4点満点にしたことである。4点満点にしたことにより真ん中の評価を無くすことができ、点数の評価を分かりやすくできると判断して作成した。

(中谷直哉)

2- (5) 「見山をにぎり」に関するアンケート分析

上記アンケートについての分析を矢川実咲(3年生)が行った。

「オープンキャンパス」1日目のアンケート結果では彩りでは高評価であった一方、玉子が入っている「見山をにぎり」の方は味が薄い。また添えられているプチトマトのへたは取り除かれておらず、衛生的に問題があるという意見が挙げられた。それらの意見はすぐに反映され2日目には若者向けに濃い味付けに、プチトマトのへたは取るなど改良が行われた。

「おうてもんパビリオン」では「オープンキャンパス」のアンケート分析によって若者向けに濃い味付けがなされた。しかし「おうてもんパビリオン」に来場した顧客層は小学生ほどの年齢も多く、山椒の味が苦手という意

見が前回よりも挙がった。このことから多様な年齢層に合わせた商品の味付けは困難であると実感した。

アンケート分析をして、「見山をにぎり」は年齢層によって意見が大きく異なることが分かった。これから一般販売するにはあらゆる年齢層にも対応した味付けを考慮しなければならないと考える。(矢川実咲)

3. 見山の郷に関する研究発表・イベント出展

3-1(1) 研究発表

2019年6月30日(日)に追手門学院大学総持寺キャンパスで開催された校友会イベント「ホームカミング・デー 2019」で経営学部ブースのポスター発表を行った。参加学生は仮谷優花、矢川実咲(以上3回生)である。ホームカミング・デーでは校友会の方々に向けて経営学部の取り組みを知ってもらうことを目的に、「追手門連携SDGs プログラム“OTMs”」とMSPの活動について発表した。

2019年8月17日(土)・18日(日)追手門学院大学、総持寺キャンパスにて開催されたオープンキャンパスに際して、経営学部ブースにて「見山をにぎり」のポスター発表を行った。発表者は兵庫沙耶花(3回生)、奥田彩奈(2回生)である。ポスター発表で経営学部の紹介に加えMSPの活動内容、当日販売の「見山をにぎり」の宣伝を行った。(矢川実咲)

3-1(2) オープンキャンパスでの出展

2019年8月17日(土)・18日(日)の2日間に渡り、追手門学院大学 総持寺キャンパスにて、開催されたオープンキャンパスでは11時30分より「見山をにぎり」、「見山ジュレ」の販売とアンケート調査を行った。「見山をにぎり」は限定50食お茶付き400円で販売し、「見山ジュレ」は赤しそとあまっこ味、ゆず味を各20食ずつ発注し、200円で販売した。

1日目の参加学生は、仮谷優花、矢川実咲、山北夏実、兵庫沙耶花、朝田美紅(以上3回生)、山下拓海、野間葉月(以上2回生)である。2日目の参加学生は、仮谷優花、山北夏実、兵庫沙耶花、朝田美紅(以上3回生)、池川亜聡、奥田彩奈、山下拓海(以上2回生)である。

1日目は13時3分に「見山をにぎり」50食分完売した。1日目を終え回収したアンケートを分析した結果、玉子のおにぎりの方の味が薄いという意見が多数あり、早急に見山の郷と改善に関する連絡を取り、きんぴらの味と梅味噌を濃くする事と、飾り付けのプチトマトのヘタは無い方が傷まず食中毒も防げるため、ヘタを取ることに確定した。

反省点として2点挙げられる。1つ目は、準備・設営に時間が掛かり、販売開始前に十分に宣伝出来ていなかった事である。2つ目は、おにぎりの中身を細かく把握出来ていないメンバーがいたため、お客様から質問を受けた際に的確に伝えられていなかった。これはすぐにSNSで共有したが、販売開始前から準備出来るような事柄であると反省した。

2日目は13時18分に「見山をにぎり」50食分完売した。1日目の反省を活かし、早めに勧誘を行ったが、食堂への来場者が少なく、1日目よりも緩やかな売れ行きになった。

全体を通して食堂の定食との差別化を図り完売出来たことが良かった。また、私たちの活動内容を伝える事も重点的に捉えていたため、その点も覚えて帰って頂けたか懸念事項ではある。このような貴重な体験が出来たことは参加学生にとってプラスに働いたと考える。(山北夏実)

3-1(3) 合同学園祭での出展

大学祭「合同学園祭」は11月2日(土)、11月3日(日)の2日間に渡り追手門学院大学 総持寺キャンパスにて行われ、見山の郷の特産品を販売した。1日目は仮谷優花、山北夏実、吉川佳奈(以上3回生)、糟谷佳樹、人見和希(以上2回生)の5人、2日目は仮谷優花、山北夏実、吉川佳奈(以上3回生)、島田和平、人見和希(以上2回生)の5人が参加した。当日の担当として、両日とも現場リーダーとして山北夏実、会計責任者として人見和希となった。他のメンバーは勧誘にあたった。

本学園祭では1日目に「見山をにぎり」を30個、「おうてもん赤しそ塩あんぱん」を30個、「見山ジュレ」赤

しそとあまっこ味 36 個、ゆず味 36 個、「赤しそサイダー」48 本発注し、見山ジュレ以外が完売した。2 日目も「見山をにぎり」と「おうてもん赤しそ塩あんぱん」は同数を発注した。「見山ジュレ」は前日の残りを 2 日目で売り切った。「赤しそサイダー」は追加で 24 本発注し、完売することが出来た。OTMs の一環として追手門学院中学校の中学生も参加し、両日とも 13 時 45 分から販売の協力をしてもらい、「見山ジュレ」の売り上げに大いに貢献してくれた。

また、合同学園祭への出店に当たり、不足していたユニフォームポロシャツ【図表 6】の 12 着追加と中学生用のビブス【図表 7】を 10 着製作した。ビブスについては、後述する「OTMs（オーテモンズ）」の活動であることが分かるよう、ロゴを前面にデザインした。このロゴは、追手門学院の 8 つの園、校が 1 つとなり「輪」を創り出す様を表し、小中高のイメージカラーであるエンジ色のフォントとした。全体の色は桜をイメージさせるピンクを採用した。



【図表 6】 MSP ユニフォームポロシャツ



【図表 7】 OTMs ビブス

売れ行きとして「見山をにぎり」、「おうてもん赤しそ塩あんぱん」、「赤しそサイダー」、「見山ジュレ（ゆず、赤しそとあまっこ）」の順に売れた。これは見山をにぎり以外の商品宣伝が不十分であった事が要因と考える。また、SDGs の内容としてプラスチック削減を意識し袋を用意しなかったため、沢山買っていただいた方に不便な思いをさせてしまった。紙袋などを用意しておくなどの対策が必要であった。

全体を通して、大きなミスはなく全ての商品を売り切ることができ、参加学生で助け合いながら成功裏にイベントを終えることができた。

（吉川佳奈）

3-（4） おうてもんパビリオン

2019 年 9 月 23 日（月）に MBS（毎日放送ちゃやまちプラザ）で行われた様々な体験イベントを実施する体験博覧会「おうてもんパビリオン」に MSP として参加した。「おうてもんパビリオン」とは SDGs やラグビー国際

大会などの話題について、追手門学院が設置する2つの中学・高等学校、大学の取り組みと関連付けて広く知ってもらう事を目的としたイベントである。参加学生は仮谷優花（3回生）、人見和希（2回生）である。

「おうてもんパビリオン」への来場者をターゲットに、フードゾーンにおいてMSPで取り組んでいるSDGsをテーマにした地産地消の推進、食品ロス減少、バガス容器の使用、6次産業化の展示を行った。本出展の目的は活動の知名度向上を図るとともに、見山の郷と共同で企画開発した「見山をにぎり」の試食アンケートの実施である。試食配布は13時から開始し、来場者に好評であったため品切れとなり16時に終了した。来場者に直接アピールできたことは非常に有意義であった。

一方で、アンケート回収は64枚と来場者の半分以下であった。アンケート回収率の低さとMSPの概要説明を来場者に対し十分に行えなかった2つの点が課題となった。

2つの課題はスペース正面が導線であったため、来場者がその場に滞留する時間が短時間となったことが原因と考えられる。対策を挙げるとすればアンケート用紙の簡易化により容易に回答できるようにする。また、説明内容をまとめたビラを「見山をにぎり」と一緒に渡し、ビラを手にとってもらえる状況を作るなど対応する必要があると考える。

（人見和希）

3-（5）見山の郷収穫祭

2019年10月5日（土）見山の郷で開催された、「見山の郷収穫祭」に参加した。参加学生は、仮谷優花（3回生）、島田和平、奥田彩奈、池中勇人（以上2回生）の4人である。参加学生は、米すくい、ぶどう&ミニトマトすくい、野菜の詰め放題の販売とビンゴゲームの司会進行を担当した。

米すくいでは、長い列ができるほどの盛況ぶりであった。ぶどう&ミニトマトすくい、野菜の詰め放題は茨木の野菜や果物を安く買えるということで、多くのお客様に喜んでもらうことが出来た。ビンゴゲームでは、2回生の3人が司会進行を担当し3回生はサポートに回った。ビンゴカードの配布や景品の受け渡しなどは、いばらき観光大使や見山の郷従業員に協力していただいた。ビンゴゲームには多くの参加者が集まり盛り上がりを見せた。司会進行については、見山の郷従業員や来場者から好評の声を頂いた。

（島田和平）

4. 追手門学院連携 SDGs プログラム「OTMs（オーテモンズ）」見山チーム活動概要

今期のMSPのコンセプトが見山の郷とSDGsということから、「OTMs」としても活動を行なった。「OTMs（オーテモンズ）」とは、追手門学院中高（木村耕太郎教諭）、経営学部（村上喜郁ゼミ・宮崎崇将ゼミ）、北摂総合研究所と共同した追手門連携プログラムのことである。大学生が専門分野で学んだ内容をSDGsの視点から捉え直し行われた、中学校での大学生によるSDGs授業である。MSPが見山の郷で行なっている課題解決の活動内容に、SDGsの観点として17項目のうち②飢餓、⑦エネルギー、⑧成長・雇用、⑨イノベーション、⑪都市、⑫生産・商品、⑮陸上資源の項目が当てはまっている。そこで、MSPの活動を事例にし、併設校である追手門学院中学校で、中学生1年生のBクラス・Cクラスに授業をおこなった。この授業を通して、「学びあい、教えあい」により、互いに深くSDGsについて学ぶこと、最終成果として合同学園祭で中学生が展示発表とMSPのメンバーに加わり販売・見山の郷のPRを行う事が目的である。MSPからは、仮谷優花、兵庫沙耶花（以上3回生）の2名が「OTMs」のメンバーとして加わった。MSPからは、2019年7月12日（金）の2・3限、2019年9月13日（金）の2・3限の授業を担当した。

（仮谷優花）

4-（1）SDGs プログラム「OTMs（オーテモンズ）」見山チーム活動 第1回

1回目の授業は2019年7月12日（金）の2限（10時～10時50分）ならびに、3限（11時～11時50分）に行なった。2限の授業はBクラス（19名）、3限の授業はCクラス（22名）を対象とし、仮谷優花、兵庫沙耶花（以上3回生）が授業を行なった。授業テーマは「見山の郷の社会的課題とSDGsの課題」である。目的は、見山の郷をフィールドに地域農業の現状と課題や、食品流通と規格外農作物の問題などを教えることである。

授業内容は、①自己紹介、授業目標（5分）、②見山の郷についての説明（15分）、③見山の郷の課題とSDGsの課題との関わり（15分）、④まとめ、感想記入（10分）と45分の内容で構成した。中学1年生が対象のため、

講義の間にワークをたくさん組み込み飽きさせないように考えた。②の説明では、白地図をパワーポイントでホワイトボードに映し出し、見山の郷の位置を前に出て当ててもらおうといったワークを行った。その後、見山の郷の説明、様々な経済がある内で農業に力を入れていて実際に見山の郷では1次産業、2次産業、3次産業それぞれどのような活動をしているのか説明を行った。③では、従業員と顧客層の高齢化、競合直売所の出現といった課題があり、それがSDGsの課題とどのような関係があるかについて説明を行った。【図表8】

授業計画を立てるところから作成、授業準備、授業練習に手間取った。反省点として、早口になりスライドを早く変えてしまっていたこと、見山の郷の平均年齢のスライドで、比較（中学校の先生、身近な人）するものがなかったこと、授業を受けてどのように行動に移してもらうかを考えられていなかった事の3点が挙げられる。2人で授業を行っていたので、様子を見て合図をするべきだったと考える。（仮谷優花）



【図表8】 OTMs 活動紹介ポスター



【図表9】 OTMs 授業風景

4-（2）SDGs プログラム「OTMs（オーテモンズ）」見山チーム活動 第2回

2回目の授業は2019年9月13日（金）の2限（10時～10時50分）ならびに、3限（11時～11時50分）に行われた。2限の授業はBクラス（23名）、3限の授業はCクラス（23名）を対象とし、仮谷優花、兵庫沙耶花（以上3回生）が授業を行なった。テーマは「見山の郷の課題解決方法とMSPの活動」とした。授業目的はSDGsの知識、問題意識を養ってもらい、自分たちなりに解決策を考えてもらう事である。

授業内容は、①復習、授業目標の開示、②見山の郷の課題、③見山の郷解決案事例、④まとめ・感想記入と作成した。②では見山の郷の課題から解決案を考えるワークを行った。【図表9】③では、見山の郷の課題解決案事例を紹介した。見山の郷の課題として高齢化問題、後継者問題を挙げ、その解決案の事例として、6次産業化を行うといった新しい取り組み、規格外商品の有効活用（販売、加工）、MSPの活動を紹介した。MSPの活動は、学生のアイデアを取り入れる事ができ、若い人たちに見山の郷について知ってもらう機会を作っているため、この課題解決につながっていると言える。説明を行った後、実際にMSPで開発された商品「おうてもん赤しそ塩あんぱん」の試食を行なった。私たちは大学で学んだことを生かし、商品開発などを通じ、身近にあるSDGsの課題解決に取り組んでいることを知ってもらい、自分だったらどのようなことが出来るか考える機会を与えられたのではないかと考える。反省点としては、グループワークの際、無意識的に盛り上がっている班の方に行ってしまう、他の班にも目を配ることが出来なかったことである。

なお、「OTMs」の活動は、2019年11月3日（日）に開催された「2019年度 追手門学院 学院生表彰」にて奨励賞を受賞した。本活動を通じて、見山の郷やMSPに関しての理解を深められただけでなく、外部からの評価を頂けたことは、非常に光栄である。（仮谷優花）

5. 2019 年度「見山の郷商品開発プロジェクト」活動の総括

2019 年度の見山の郷商品開発プロジェクトのリーダーを務めさせていただきました仮谷優花です。本プロジェクトを通して、ビジネスの基本である「報告・連絡・相談（ホウレンソウ）」の大切さを改めて感じました。プロジェクトを動かしていく上で、念密な計画を立てその計画に沿って実行していくことが困難でした。実際に大学の授業で学んだ、PDCA サイクルの活用、トラブルが起きた際の対処法等のリスク管理、余裕のあるスケジュール管理、それぞれの能力に合わせた割り振りの大切さ、これらすべてを実践する場となりました。今年度は新商品の開発、大学生による中学生に向けた SDGs 授業を主に行いました。「見山をにぎり」は夏休み中に行われるオープンキャンパスでの発売を予定していたため、夏休み中の準備に参加できる人数が集まらず一人一人の負担が重くなりすぎてしまっていたことが反省点だと考えます。私たち学生には休暇があるということを常に頭に入れ、それを考慮したスケジュールを組むべきでした。「OTMs」としての活動は、宮崎ゼミのメンバーと共に進めたため、情報の共有や合同練習の日程合わせがとても難しく感じました。プロジェクト全体を通して、メンバーへの負担が偏りすぎてしまっていた点、スケジュール計画が甘かった点など私自身プロジェクトリーダーとして至らない点が多々ありましたが、支えてくれたプロジェクトメンバー、このような実践する場をつくりご指導いただいた担当教員の村上喜郁准教授に感謝しています。

最後になりましたが、今年度の見山の郷商品開発プロジェクト活動にご支援、ご協力いただきました見山の郷の皆様、追手門学院大学の教職員の皆様、加えて、支えてくれたプロジェクトメンバーに厚く御礼申し上げます。
(仮谷優花)

補記：

本報告書は、追手門学院大学と農事組合法人 見山の郷 交流施設組合との提携事業について報告することを目的としている。加えて、本事業に参加した学生自身の1年間の振り返りと総括、次年度以降に参加する学生への情報提供も目的となっている。したがって、本来外部への報告の必要が無いであろう内容も、あえて掲載していることをご理解いただきたい。本報告書にも記している通り、本提携事業は、参加学生 PBL（Project Based Learning：課題解決型学習）あるいはアクティブラーニング（Active Learning：能動的学修）の場としての側面も持っている。また本年度は、追手門学院大学 総持寺新キャンパスの開学に伴い、併設中高等学校と共同の「追手門学院 合同学園祭」の開催など、様々な点で新たなチャレンジが増えることとなった。特にこれら点で、農事組合法人 見山の郷 交流施設組合の皆様、ならびにご協力いただいた皆様に、この場を借りてあらためて御礼申し上げたい。
(指導担当：経営学部 准教授 村上喜郁)

【資料】2019 年度「見山の郷商品開発プロジェクト」メンバー一覧

リーダー : 17 MA 158 仮谷優花
サブリーダー : 17 MA 197 矢川実咲
現場責任者 : 17 MA 183 山北夏実

商品開発責任者 : 17 MA 128 兵庫沙耶花
広報責任者 : 17 MA 048 朝田美紅

17 MA 010 貞森樹	17 MA 188 小谷敦也	18 MA 049 森下怜美	18 MM 021 奥田彩奈
17 MA 102 大崎水聖	17 MA 220 山口凱大	18 MA 073 島田和平	18 MM 126 人見和樹
17 MA 126 吉川佳奈	17 MM 071 中谷直哉	18 MA 074 糟谷佳樹	18 MM 158 山下拓海
17 MA 145 中井みのり	17 MM 276 篠原共哉	18 MA 103 川口嵐士	18 MM 189 野間菜月
17 MA 186 東出莉穂	18 MA 027 池川亜聡	18 MA 192 陳瑤	18 MM 190 池中勇人